

平成 25 年度
登別市デンマーク友好都市
中学生派遣交流事業
研修報告書



目 次

- 登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の概要・・・・・・・・・・1
 - 事業概要
 - 研修日程表
 - 派遣生徒・引率者・ホストファミリー名簿
 - 派遣日程表

- 紀行文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
 - 8月12日(月)：出発～コペンハーゲンでの初日
緑陽中学校 1年 菊 地 智 成
 - 8月13日(火)：オーデンセ市内見学
北海道登別明日中等教育学校 3年 長谷川 季 里
 - 8月14日(水)：リングゲフリー校での交流
登別中学校 2年 坂 口 太 一
 - 8月15日(木)：レゴランド見学・食事会
鷺別中学校 1年 佐 藤 祐 介
 - 8月16日(金)：フリー校での交流・森の幼稚園見学
緑陽中学校 2年 埜 上 満
 - 8月16日(金)：老人ホーム訪問・図書館見学
幌別中学校 2年 伏 見 堯 師
 - 8月17日(土)：イーエスコウ城見学
西陵中学校 1年 大 友 琴 響
 - 8月17日(土)：ホストファミリーとの時間
鷺別中学校 1年 橋 本 晃 太 朗
 - 8月18日(日)～19日(月)：帰国
緑陽中学校 3年 楠 陸 哉

- 研修テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
 - 伏 見 堯 師：イーエスコウ城と食文化について
 - 橋 本 晃 太 朗：「LEGO」について
 - 佐 藤 祐 介：レゴブロックについて調べて
 - 坂 口 太 一：デンマークの鳥について調べました
 - 大 友 琴 響：生活文化全般について
 - 楠 陸 哉：日本の子育てとデンマークの子育て
 - 埜 上 満：デンマークの環境意識を調べて
 - 菊 地 智 成：生活の違いについて
 - 長谷川 季 里：デンマークの福祉と教育

○感想文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

- 伏見 堯 師：デンマークの思い出
- 橋本 晃太郎：最高の思い出
- 佐藤 祐 介：デンマークでの思い出
- 坂口 太 一：日本から離れた一週間
- 大友 琴 響：デンマークで過ごした日々の思い出
- 楠 陸 哉：デンマークでの思い出
- 埜上 満：デンマークでの思い出
- 菊地 智 成：デンマークでの思い出
- 長谷川 季 里：デンマークを訪れて

○引率者報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

- 団 長：櫻井 貴 志：登別市教育部教育委員会学校教育グループ 学務主幹
- 引率者：田村 晶 子：鷺別中学校教諭

事業概要

【事業概要】

1 目的

登別市の中学生を友好都市のデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に派遣し、青少年との交流を深め、日本とは異なる生活や文化を体験させることにより、生徒の人間性を豊かにし彼らの将来に良好な影響を与えると同時に、ファボー・ミッドフュン市との更なる交流推進の一翼を担うことを目的とする。

2 訪問国及び都市

デンマーク王国：コペンハーゲン市、ファボー・ミッドフュン市、オーデンセ市

3 派遣期間

平成 25 年 8 月 12 日（月）～19 日（月）：7 泊 8 日

4 交流内容

表敬訪問：ファボー・ミッドフュン市役所

学校訪問：リングフリー校

施設見学：アンデルセン博物館、図書館、老人福祉施設、
レゴランド、イーエスコウ城、森の幼稚園

5 研修内容

(1) 結 団 式：平成 25 年 7 月 5 日（金）

(2) 事前研修：平成 25 年 7 月 17 日（水）～8 月 7 日（水） 計 10 回
デンマークの概要の学習、研修テーマの発表練習、英会話、
登別の紹介・歌・踊りの練習、デンマーク料理実習など

〔講師等〕 登別デンマーク協会

派遣 OB：佐 藤 啓 陸〔H22 年度：西陵中学校〕
松 田 綾希子〔H22 年度：登別明日中等教育学校〕
林 可 歩〔H23 年度：幌別中学校〕
水 谷 太 亮〔H23 年度：西陵中学校〕
米 谷 侑 樹〔H23 年度：登別中学校〕
萩 原 愛 美〔H24 年度：幌別中学校〕
鹿 野 睦 美〔H24 年度：幌別中学校〕
高 城 萌 香〔H24 年度：鷺別中学校〕
金 澤 亜有菜〔H24 年度：鷺別中学校〕
神 沙 希〔H24 年度：西陵中学校〕
鎌 田 諒 〔H24 年度：緑陽中学校〕

赤 松 和 [H24 年度：登別明日中等教育学校]
南 三 明 [H24 年度：登別市役所]
室 山 知 美 [H24 年度：緑陽中学校教諭]

- (3) 事後研修：平成 25 年 8 月 23 日（金）～9 月 30 日（月） 計 6 回
研修成果まとめ、紀行文・感想文提出、帰国報告会準備
- (4) 帰国報告会：平成 25 年 10 月 2 日（水）

【研修日程表】

月 日	内 容		会 場	時 間
7月5日(金)	結団式・第1回保護者説明会		市民会館/小会議室	18:00~19:30
7月17日(水)	事前研修①	デンマークの概要説明、研修テーマの発表、役割分担（紀行文・登別紹介・挨拶）、アトラクションの内容決定	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
7月19日(金)	事前研修②	英会話、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
7月21日(日)	事前研修③	派遣OBとの懇談	市民会館/視聴覚室	10:00~11:30
7月22日(月)	事前研修④	手紙の書き方、英会話、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~17:45
7月24日(水)	事前研修⑤	英会話、登別の紹介の練習、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
7月30日(火)	事前研修⑥	英会話、登別の紹介の練習、アトラクション練習	市民会館/大会議室	9:30~12:00
8月1日(木)	事前研修⑦	英会話、登別の紹介の練習、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	9:30~12:00
8月2日(金)	事前研修⑧	登別の紹介の練習、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	9:30~12:00
8月6日(火)	事前研修⑨	最終打ち合わせ、総練習	市民会館/視聴覚室	9:30~12:00
8月7日(水)	事前研修⑩	デンマーク料理教室	市民会館/調理室	9:30~12:30
8月9日(金)	市長へ出発挨拶（派遣者）		市役所/市長応接室	10:00~10:30
	第2回保護者説明会（保護者）		市役所/第2委員会室	18:00~19:00
8月12日(月)	デンマークへ出発		市役所/裏駐車場	5:15~
8月19日(月)	デンマークから帰国		市役所/裏駐車場	17:30
8月21日(水)	市長へ帰国挨拶		市役所/市長応接室	16:30~17:00
8月23日(金)	事後研修①	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
8月30日(金)	事後研修②	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
9月6日(金)	事後研修③	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
9月13日(金)	事後研修④	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
9月20日(金)	事後研修⑤	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
9月30日(月)	事後研修⑥	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
10月2日(水)	帰国報告会		市民会館/大会議室	18:00~19:30

【派遣生徒・引率者名簿】

緑陽中学校	3年生	楠 陸哉
幌別中学校	2年生	伏見 堯師
鷲別中学校	1年生	橋本 晃太郎
鷲別中学校	1年生	佐藤 祐介
登別中学校	2年生	坂口 太一
西陵中学校	1年生	大友 琴響
緑陽中学校	2年生	埜上 満
緑陽中学校	1年生	菊地 智成
登別明日中等教育学校	3年生	長谷川 季里

団 長	登別市教育委員会教育部 学校教育グループ 学務主幹	櫻井 貴志
引率教諭	鷲別中学校 英語教諭	田村 晶子

【ホストファミリー名簿】

派遣者名	ホスト名・住所・メールアドレス	性別 年齢	家族構成
伏見 堯師	Anna Dahl Lund アナ・D・ルンド Søvej 2a, 5750 Ringe, Denmark e-mail: annadahllund@gmail.com	女 13歳	母:メッテ 妹:アストリッド(8歳) 父:ブライアン
	Anna Ellegaard Skytte アナ・E・スキット Sangdrosselvej2, 5700 Svendborg, Denmark e-mail: annaeskytte@gmail.com	女 14歳	母:ベティナ 兄:クリスチャン(16歳)
橋本 晃太朗	Alma Bruun Jespersen アルマ・イエスパーセン Østergade 18, 5750 Ringe, Denmark e-mail: alma2000@hotmail.dk	女 12歳	母:アネ 兄:アルフレッド(18歳) *父:キム
佐藤 祐介	Emma Fjord Nielsen エマ・F・ニールセン Kildevangen 1B, 5750 Ringe, Denmark e-mail: Fjord@5750.dk	女 13歳	母:スザンネ 父:サーン 姉:リーネ(18歳) 妹:イーダ(11歳)
坂口 太一	Marie Ørtved Seholt マリエ・Ø・セホルト Rolighedsvej 15, 5750 Ringe, Denmark e-mail: marie.seholt@gmail.com	女 13歳	母:リセ 父:キネス 妹:フリーダ(10歳) 兄:フレデリック(16歳)
大友 琴響	Amalie Færgemann Bernsdorf アマリエ・F・ハーンストーフ Hestehavevej 15, Sdr. Nærå, 5792 Årslev, Denmark e-mail: camillabernsdorf@live.dk	女 13歳	父:ケント 姉:イーダ(15歳) *母:カミラ
	Iben Foxil Volstrup イベン・F・ホルストラップ Dalager 6, 5750 Ringe, Denmark e-mail: i.foxil@jubii.dk	女 12歳	母:ターニャ 父:クヌー 弟:ニルス(8歳)
楠 陸哉	Markus Jensted マークス・イエンステッド Odensevej 29a, 5750 Ringe, Denmark e-mail: Markuslevinjensted@gmail.com	男 13歳	母:ギッテ 妹:オリビア(9歳)
埜上 満	Jonas Kirkeløkke ヨナス・キアーケロック Sødingevej 27, 5750 Ringe, Denmark e-mail: jonaskirkelokke@yahoo.dk	男 14歳	母:アネドレーテ 父:ヤコブ 姉:シーネ(26歳) 姉:セシリー(16歳)
菊地 智成	Marie Vestergaard マリエ・ベスタゴード Hallingager 34, 5750 Ringe, Denmark e-mail: mvfrederikisen101@gmail.com	女 12歳	母:アネ 父:ジョニー 姉:ソフィー(14歳) 妹:アマリエ(8歳)
長谷川 季里	Amalie Pedersen アマリエ・ペダセン Lundsager 53, 5750 Ringe, Denmark e-mail: amalie.p@midtfyn.net	女 13歳	母:ピーア 父:アラン 弟:エミル(11歳)
	Renee Liv Friss Asbech レニー・アスベック Vesterparken 73, 5750 Ringe, Denmark e-mail: renee.asbech@live.dk	女 13歳	父:ブライアン
櫻井 貴志 田村 晶子	Jonathan Skov Nielsen ジョナサン・ニールセン Kildevangen 72, 5750 Ringe, Denmark e-mail: jonathanskov@live.dk	男 13歳	母:ドルテ 父:ピーター 妹:カトリーヌ(10歳) 弟:(4ヶ月)

【派遣日程表】

月日	行程	内容	食事	宿泊
8/12 (月)	市役所＝千歳空港 5:30 6:40	《1日目》 5:15 市役所裏玄関に集合 5:30 市バスで新千歳空港へ 6:40 新千歳空港到着後、搭乗手続き	機内	
	千歳空港＝成田空港 7:50 9:25	7:50 成田国際空港へ (NH2152) 9:25 成田国際空港着後、出国手続き		
	成田空港＝コペンハーゲン空港 11:40 16:05 (現地時間)	12:15 コペンハーゲン空港へ (SK984) 16:05 コペンハーゲン空港到着後、入国手続き 空港から駅へ徒歩移動		
	コペンハーゲン空港駅 17:44 ＝ コペンハーゲン中央駅 17:57	17:44 列車でコペンハーゲン中央駅へ (RE1083) 17:57 コペンハーゲン中央駅到着		
	コペンハーゲン中央駅＝ホテル 18:00 18:10	18:00 駅からホテルへ徒歩移動 18:10 ホテルチェックイン ※宿泊ホテル：ホテルリッチモンド		
派遣団	ホテル			
8/13 (火)	ホテル＝コペンハーゲン中央駅 9:00 9:15	《2日目》 9:00 ホテルチェックアウト コペンハーゲン中央駅へ徒歩移動	ホテル	
	コペンハーゲン中央駅 10:00＝ オーデンセ駅 11:30	10:00 コペンハーゲン中央駅で乗車 (IC133)		
	オーデンセ市内	11:30～15:00 オーデンセ駅着、道子・ペダスンさんと合流後、 アンデルセン博物館などを見学		
	オーデンセ駅＝リング駅 15:23 15:39	道子・ペダスンさんとオーデンセ駅で別れる 15:23 オーデンセ駅で乗車 (RE4650) 15:39 リング駅着 ホストファミリーと対面し、各家庭へ		ホスト
8/14 (水) ～ 8/17 (土)	リング市内	《3日目》 8:05～14:00 リングフリー校にて朝会・授業参加・7年生と交流		
		《4日目》 8:20～9:00 ノーアエア校訪問 9:15 リングフリー校7年生、担任の先生と共にレゴランドのある ビルンヘバスにて移動⇒レゴランド見学 16:30 リング着後、食事会にホストファミリーと一緒に参加		
		《5日目》 8:05～ リングフリー校朝会でアトラクション披露・登別紹介、授業参加 13:00～ 森の幼稚園・老人ホーム・図書館見学		
		《6日目》 イーエスコウ城見学 ※ホストファミリーの車で移動 午後からは各自、ホストファミリーと過ごす	ホスト	ホスト
		《7日目》 それぞれホストファミリー宅からリング駅に向かう ＝ 8:30 リング駅到着	ホスト	
		8:43 ホストファミリーやお世話になった方々に別れを告げ、列 車でオーデンセ駅へ (RE2623) 9:07 オーデンセ駅着	派遣団	
オーデンセ駅 9:45 ＝ コペンハーゲン空港駅 11:37	9:45 列車乗り換え、コペンハーゲン空港駅へ (IC116) 11:37 コペンハーゲン空港駅到着後、空港まで徒歩移動。出国手続き。			
コペンハーゲン空港＝成田空港 15:45 9:35 (日本時間)	15:45 成田空港へ〔日付変更線〕 (SK983)	機内	機内	
8/19 (月)	＝ 成田空港 9:35 (日本時間)	《8日目》 9:35 成田国際空港到着後、入国手続き、税関審査。	派遣団	
	成田空港＝羽田空港 11:00 12:10	11:00 成田国際空港から羽田空港までリムジンバスで移動		
	羽田空港＝新千歳空港 14:00 15:30	14:00 新千歳空港へ (荷物受取り) 到着後、市バスに乗車		
	新千歳空港 ⇒ 市役所 16:30 17:40	16:30 市バスで市役所へ 17:40 市役所到着		

紀 行 文

8月12日（月）：出発～コペンハーゲンでの初日

緑陽中学校1年 菊地 智成

ぼくはデンマークに行く前日、次の日に向けて、8：30分に寝ました。普段は、絶対この時間に寝ることはないので、すぐに眠れませんでした。明日早く起きられるかなど心配していたのですが、眠れて良かったです。

次の日ぼくは、4時30分くらいに起きて、スーツケースの最終確認をしました。そのあと、行く準備をしました。そして、市役所にもうみんなが来ていたので、びっくりして、車から早く降りました。この時はまだ緊張していなく、「ついにこの日が来た」と思いました。みんな親に「行ってきます」と一言いってから、バスに乗りました。新千歳空港に、着いたらまず、スーツケースの検査をしました。成田まで行く手続きをし、団長が「自由時間にしていよいよ。」「トイレを済ませなさい。」と言って、一回解散しました。このときは、まだみんな全然緊張していませんでした。



次に、飛行機に乗ると、ぼくが予想していたよりも、はるかに小さいものでした。この飛行機は約2時間のフライトでした。成田空港に着くとまずぼくが思ったことは、「大きい！」でした。そのあと、出国手続きなどをすまし、時間があつたので自由時間をとりました。自由時間が終わると、すぐに飛行機に乗りました。コペンハーゲン空港までのフライトは約11時間です。飛行機が、離陸すると、ぼくは「行ってきます、日本」と思い、みんなもそう思っていました。

飛行機の中は、座席のところの前にゲームなどができるものがありました。この時ぼくは、全然緊張してなく、みんなも同じような感じでした。機内食はめん類、米類、パン類などが出ました。それで、特においしかったのは、パンです。食べ終わった後は、ゲームのテトリスなどをしました。

だんだん近づくにつれ、デンマークの上を通ると「おお、もう少しだ。」と思いました。だんだんワクワクしてきたり、ドキドキしてきて、着陸すると、「お！デンマークに着いた！」と思いました。

コペンハーゲン市内のホテルにチェックインした後、みんなで歩いてチボリ公園に行きました。チボリ公園では、色々な乗り物があり、敷地がとても大きかったです。チボリ公園を見学して、その後ボートに乗って、的をねらうゲームを陸哉君や満君と乗り、少し濡れてしまいましたが、とても楽しかったです。そのあと、時間までぶらぶらして時間になったらチボリの入口に集合して、ホテルに帰る途中に、セブンイレブンに寄ってファンタを買い、この後ホテルに帰りました。



8月13日（火）：オーデンセ市内見学

登別明日中等教育学校 3年 長谷川 季里

2日目、私は派遣団OBの方々にホテルの朝食は美味しいということを知っていたのでその朝食を楽しみにレストランへ向かいました。レストランの店内は白を基調とした感じでも好感が持てました。気になる食事の方はOBの方々の言う通り美味しかったです。

そしてホテルをチェックアウトし、道子ペダスンさんが待っているオーデンセへ向かいました。道子さんと合流し、昼食を買いバスに乗りました。しかし途中で強いにわか雨が降ってきて公園で昼食を食べる予定を急遽変更し、屋根があるところに避難してそこで食べました。やがて雨はやみ、私たちは徒歩でオーデンセ市街へと向かいました。



オーデンセはいたる所に童話作家アンデルセンにちなんだタイル、彼のお話に出てくる物の像などがありました。アンデルセンの生家は狭く、貧しかったことが部屋の中や家具の質で窺えました。



そして、すこし歩いたところに聖クヌード教会という凄く立派な教会がありそこに立ち寄りました。ここはアンデルセンがキリストの洗礼を受けた場所で教会の裏庭にはアンデルセンが聖書のようなものを持って立っているという銅像がありました。

教会のあとはアンデルセンの博物館へと向かいました。途中でオーデンセの商店街のようなところを通りました。日本の商店街とは180度違ってスタイリッシュで建物が綺麗でした。アンデルセン博物館ではアンデルセンの生涯が描かれている絵があるドームやアンデルセンの作品、生前着ていた服を再現したものなどがありました。しばらく館内を見学した後、いよいよホストファミリーに会うためにオーデンセ駅へ。道子さんに別れを告げ電車で約20分かけてリングの駅に向かいました。

電車内での派遣メンバーは私も含め皆、緊張していました。そしてとうとうリングの駅に到着し、ホストファミリー達と対面。内心、私は不安でいっぱいでしたがホストファミリー達が温かく迎え入れてくれたのでほんの少しホッとしました。その後は各自の家へ。

ホストの家に着くと家の中を案内してくれました。私の部屋はホストシスターの弟さんの部屋で私は少し彼に「申し訳ないな」と思いました。一通り案内を終え、お土産も渡し落ち着いたときにホストの子に「外へ行こう」と言われたので2人の後をついていくとそこには大きなトランポリンが。よく跳ねるので最初は恐怖でしたが、次第に慣れていき音楽をかけ跳ねながら歌いました。そしてその後はカードで遊んだりお菓子を食べたりして楽しみました。そして夕食の時間になり、箸を勧められましたが私は滅多にフォークとナイフで食事をしないので経験してみるのもありだと思い断りました。

その後、家族と団欒した後ホストに「お休みなさい。」と告げ翌日の準備をして眠りました。家族と馴染めるかどうか不安でしたが、仲良く過ごせていけそうと感じたので安心しました。

8月14日(水)：リングフリー校での交流

登別中学校2年 坂口 太一

ホームステイが始まって初めての朝。少し緊張していたせいかな午前4時50分に目を覚ました。朝食は少し小さめのトーストに薄い板チョコをのせたり、ジャムを塗ったりして食べました。僕のホストファミリーは甘いものが好きなのか、ジャムを塗る量がとても多いように感じました。



8時頃にリングフリー校に着きました。校舎はホール、教室、体育館、音楽室などに分かれていました。ホールで朝会に参加しました。朝会ではまず、私達のことを紹介してくれました。その後は歌を3曲、全校生徒で歌いました。その内の一曲はさくらだったので歌うことができました。

朝会終了後は授業に参加しました。教室は生徒数18名なので広い教室ではありませんでした。前の黒板にはホワイトボードも付いていて、ホワイトボードの上はプロジェクターのようなものがありました。黒板には先生だけでなく、生徒も自由に書き込んでいました。1時間目はみんなで自己紹介をしました。リングフリー校の7年生はとても英語が上手で、自分が英語で自己紹介するのがなんだか恥ずかしく感じました。授業と授業の間には、日本より長い休み時間があり、デンマークチーム対ジャパチームでサッカーをしました。

2時間目の授業はドイツ語？の授業でした。リングフリー校の生徒もドイツ語は英語ほど話すことはできないようでした。とは言っても、先生が話すことを何とか聞き取っているようでした。僕は結局一時間、一言も聞き取ることが出来ずに終わりました。そして、ホストファミリーが作ってくれたお弁当を食べました。まだ10時くらいであまりお腹はすいていませんでした。しかも中身は…人参一本！と、パンでした。人参一本を食べるのには少々時間がかかりましたが、食べ応えがあり甘くておいしかったです。他の生徒の弁当を見るとやっぱり人参が。りんごを持ってきている生徒もいました。しかもそのりんごも丸まる一個。デンマークはワイルドだなあと思いました。

放課後にもサッカーをしました。サッカーコートがたくさんあり、小さなコートでサッカーをしました。そのコートは柵で囲まれていて柵に当たってもプレーを続けてよいルールでした。言葉はあまり通じないのにサッカーをしているうちに、いつの間にかみんな仲良くなっていました。



家に帰ると学校では一切感じる事のなかった疲れに襲われました。まるで自分の体が自分に「寝なさい」といっているようでした。目を閉じて、今日あったことを振り返ろうとしましたが、それすらも出来ずにすぐに寝ました。

8月15日（木）：レゴランド見学・食事会

鷺別中学校1年 佐藤 祐介

ノーアエア校に行って登別市の紹介をした後、学校を案内してもらいました。ノーアエア校の人たちは日本語を少し話せてびっくりしました。その後、ノーアエア校のみんなに別れを告げてリングフリー校の生徒とバスでレゴランドに向かいました。レゴランドに行くにはバスで2時間かかりました。僕はあたりの景色を見ずにバスの中では、ずっと寝てしまいました。やがて楽しみにしていたレゴランドに着きました。

レゴランドでは、伏見君と同じクラスの人たちと見学しました。入口から中に入ると、辺り一面レゴブロックで出来ていて自由の女神・デンマークの町・動物たちなどがあり、自分が小さい時から遊んでいたブロックでこんな物まで作れるのかと感動しました。

中には遊園地やお土産屋さんもありました。みんなであトラクションにたくさん乗りました。



一番楽しかったアトラクションはジェットコースターです。

その後みんなでお昼を食べました。ホストのお母さんが作ってくれたハンバーガーを食べたのですがボリューム満点でした。

レゴランドでの楽しい時間はあっという間に過ぎて行きました。

夕方、リングフリー校に戻ってから食事会に参加しました。それぞれのホストファミリーが作ってくれたパスタ・サラダ・ポテト・チキン・フリカデラ（ハンバーグみたいな物）、お寿司もありました。とても美味しかったです。



食べた後は、クラスみんなでフットボールをして盛り上がり、最後に派遣団のみんなが中心となり、鬼踊りを踊り、ホストファミリーの方々も一緒に踊ってくれてすごく盛り上がりました。

今日は、とても楽しい一日でした。

8月16日（金）：フリー校での交流・森の幼稚園見学

緑陽中学校2年 埜上 満

デンマークでの生活も5日目になり、デンマークの生活にもすっかりなれていました。予定表を見るとデンマークでの生活もう終わりが近づいていることに気づき、寂しい気持ちでした。

今日は、フリースクールの朝会で、事前研修で何度も練習した登別紹介のプレゼンテーションとアトラクションの発表の日で朝から緊張していました。

朝学校に行くと、すぐに講堂にいて発表がありました。友好Tシャツを着てくる約束でしたが、忘れてくる人がいました。発表はすこし緊張していましたが、よくできたと思います。歌は、さくらさくらの歌詞が少し違っていました。それでもデンマークの人が一緒に歌おうとしてくれたので、うれしかったです。発表が終わると、フリースクールの人たちが鬼踊りを練習してくれていて、一緒に踊って楽しむことができました。

発表が終わるとみんなでサッカーをしました。サッカーをしてから、また朝会をしに講堂に行きました。デンマークの学校のスケジュールはよく分かりませんでした。

朝会が終わると、教室に戻って授業を受けました。最初の授業は地理のようなもので、地球の生き物などについてのビデオを見ました。このビデオは英語でしたが、さっぱりわかりませんでした。次は英語の授業。日本の英語の授業とは違って、日本の国語の英語版のような感じでした。この授業では、先生の示したいくつかの単語をすべて使って、お話をつくるというもので、日本人1人とデンマーク人2人で話し合っつくるというものでした。ですが、話し合いに参加するのが、あまりうまくできず、デンマーク人の人たちがどんどん先に進めてしまっている感じでした。

授業が終わると、午後から予定していた森の幼稚園に行きました。結構歩きましたが、意外と近いところにありました。そこは、面白そうな遊具がたくさんあって楽しそうでしたが、森の中になくて、ちょっとイメージとは違うと思っていたら、そこは、幼稚園の施設の一部で、本当の森の幼稚園は別のところにあると聞きました。

そこにも歩いて行きました。進むにつれて、だんだん森に入っていきような感じがしました。森に入ると、目にはいつてきたのは、ハンモック、木でできたすや机、そしてこどもたち。「本当に森の中にあるんだ。」このとき僕はこう思いました。ここでは



たき火をやっていて、その横で小さな子どもがナイフを持って、何かを掘っているようで、危なそうでした。森の中には綱渡りをするようなロープや木にぶら下げてあってそれをよじのぼるようなロープなど僕たちがやっても難しいような遊具があったりして、すごいなあと思いました。幼稚園の子どもたちはまだ英語が話せなくて、大人になると、デンマーク語も英語も話すのに、どうして今はデンマーク語しか話さないのかなと疑問に思いました。

8月16日（金）：老人ホーム訪問・図書館見学

幌別中学校2年 伏見 堯師

みなさんは、外国の図書館について何か知っていることはありますか？知っていたとしても、ほんの2,3個でしょう。僕はたくさん知っています。なぜなら行ったことがあるから。8月16日の放課後、デンマークのリンゲ市内にある、図書館に行きました。図書館について話す前に、日本の図書館について話しておきます。僕の知っている図書館は、ごくごく普通です。普通のコンクリートの壁、様々な本、カウンター、何もかもが普通でした。

しかし、デンマークの図書館は違います。まず、図書館の前についた時、僕は圧倒されました。外見から、日本とははるかに違いました。初めて見たとき、思わず「Is it a library?」と聞いてしまいました。まったく図書館には見えなかったのです。とても大きくたたずんでいて、レンガの屋根で、レトロな感じで、何かの博物館に来てしまったのかと思ったほどです。これが図書館だと知った時、僕は興奮と感動に包まれました。中に入ると、たくさん本があり、その中の一つを手に取り、中を見てみるとデンマーク語でびっしりうまっていました。そこで、周りからだけでなく、本からもここはデンマークだと実感しました。そして、アナたちが館内を案内してくれました。1階にはたくさん本がありましたが、その中で一番目を引いたのが、日本の漫画です。僕が知っている漫画もたくさんありました。しかも、それらはすべて借りられるというのです。日本の図書館にも漫画はありますが、その倍以上の種類と数の漫画が借りられます。そのあと、二階に行きました。途中で、ガラスケースに入った日本人形がありました。意外な場所で日本の文化を見ることができました。少し驚きました。二階には、写真がたくさんありました。その一つ一つ、ストーリー性があっておもしろかったです。



その後、僕は老人ホームを訪問しました。意外と大きかったです。まず到着したら、玄関のところで管理人の方にお土産を渡しました。そして、中に入りました。中は、とてもきれいで、自動掃除機が何台もありました。奥に進むと、車いすに乗ったおじいさんやおばさんがたくさんいました。すぐに、練習していた「さくら さくら」を歌いました。終わると、みなさん拍手してくれて、とても喜んでくれました。

そして、食堂や、個々の部屋など、様々な場所を案内してくれました。最後に、初めに老人たちと会った場所で、クッキーと紅茶を食べました。とてもおいしかったです。

今回、図書館と老人ホームを見学して、日本と比較してみると、デンマークの方がその施設を利用しやすくなっていると思いました。とても貴重な体験をすることができたので、将来や今後の生活、学校生活に役立てていこうと思いました。

8月17日（土）：イーエスコウ城見学

西陵中学校1年 大友 琴響

8月17日土曜日9時半頃、私は、イーエスコウ城に行くために、ホストのイーベンと、弟のニルスと母のターニャが運転する車で家を出ました。私は、車の中で、日本以外のお城を見るのは初めてなので、どれくらいすごいお城なんだろうと、とてもワクワクしていました。登別のニクス城のもととなっているお城ということを知っていたので、どういうところが



がすごいのかを自分の目で確認したいと思いました。

イーエスコウ城の敷地に入ると庭が見え、そのまま進むと小さな迷路、その周りにはたくさんの木があり、その奥に湖に囲まれたイーエスコウ城がありました。私は、行く前に見ていたイーエスコウ城よりも実物は、とてもニクス城に似ていたことに、驚きました。

そして、お城の周りや城内を見学することになりました。まず初めにお城の入り口に行くための吊り橋を渡りました。写真で見たら短い橋に見えるのですが、結構長くて渡るのに時間がかかりました。中に入ると受付があり、チケットを渡しました。パンフレットを渡すのに受付の人が、「Language of your country?」と私に聞いて来ました。私は、「Japanese.」と答えました。そして、日本語のパンフレットをもらいました。私は、日本以外の国で日本語を見れたことがとても嬉しかったです。

まず、お城の1階を見ました。狩猟室という部屋があり、その部屋は伯爵の書斎だそうです。伯爵の情熱を示すものがたくさん飾られてありました。他にも、2つ部屋があります。1つは、黄色の部屋といい、ユニークなコレクションがありました。2つめは、小塔といい、壁に家族の肖像画が飾られていました。次に、2階を見ました。宴会場という部屋があります。そこには、2枚の肖像画があり、通り過ぎると、視線が自分を追っているように見えてとても怖かったです。2つめは、リーボーの部屋という名前で、人形の家はとてもすばらしかったです。3つめは、鹿の廊下です。たくさんの国の狩猟のコレクションがありました。4つめは、北の塔といい、すばらしい庭の眺望ができ、きれいでした。5つめは、ビクトリア朝の部屋といい、典型的なビクトリア朝風の家具が備わっていました。6つめは、音楽の部屋です。伯爵夫人はバイオリニストで音楽愛好家だったそうです。7つめは、執事の部屋で、客室として家具が備え付けられていました。8つめは、海軍大将の部屋です。この部屋は、伯爵夫人の寝室だそうです。9つめは、南の塔です。伯爵が両親を訪れたときに使用された部屋だそうです。最後に屋根裏部屋をみました。呪いの人形といわれるものがあり、イーエスコウ城に最初からあったそうです。



お城を出ると、私と長谷川さんとホストファミリーの方と一っしょに迷路をしました。とても難しくて迷いました。ですが、ゴールできたのでとても嬉しかったです。

8月17日（土）：ホストファミリーとの時間



鷺別中学校1年 橋本 晃太郎

デンマーク派遣事業6日目。イーエスコウ城見学後の午後、ぼくはホストファミリーとの時間を楽しみました。その日は、智成くんとそのホストファミリーが泊りに来ました。やっぱり日本人が近くにいると、とても心強く、自信をもって会話をする事が出来ました。

イーエスコウ城から帰ってきて、最初に「アントニオ」という名前のゲームをしました。これは、棒を投げ、直方体の木の的にあて、全部あてた方から真ん中に置いてある王様にまたをくぐらせあてるというゲームです。チームは智成くんとぼく対それぞれのホストファミリーでやりました。この勝負は、ぼくらのチームが勝ちました。とても楽しかったです。

次に日本でいう「かくれんぼ」をしました。隠れるところは、たくさんあるのになぜかすぐに見つかってしまいました。

そのあとはお金を変換するために、銀行に向かいました。しかし、最初に行った銀行はカードでないと変えられなかったため、もう一つの銀行へ向かいました。そこでは、理由は分かりませんが、なぜか変えられませんでした。ぼくは、「もう、いいよ」と言おうとしましたが、また次の銀行へつれていってくれました。そこでは、やっとお金を変えることができました。その時はホストファミリーの人たちにとっても感謝しました。変えたお金でお土産を買いに行きました。智成くんはおもちゃ屋で、スライムのようなものを買っていました。ぼくは、スーパーマーケットで父の好きなコーヒーと母の好きなガーデニング用品を買って行きました。その他、友達にはお菓子などを買って行きました。

そして、家に帰り、サッカーのボードゲームをしました。これも「アントニオ」と同じチームでやりました。この勝負は1勝2敗で、僕らのチームが負けました。



そのあと、晩ご飯を食べ「エラゴン」というファンタジー系の映画を見ました。DVDの準備をしているときホストファミリーのお母さんがポップコーンと、グミと、ラクリスという名前のキャンディーのようなグミのような不思議な味のお菓子を用意してくれました。ラクリスはあまり好きではないので少ししか食べませんでした。どれもおいしかったです。見終わったころには、もう寝る時間になっていたため歯を磨いて寝ました。この日は最後の日でもありましたが、とても楽しむことが出来ました。

8月18日（日）～19日（月）：帰国

緑陽中学校3年 楠 陸哉

「Take care」この言葉が、とても切なかった。普段はめったに泣かない僕が思わず涙を流してしまった。マークス、ギッテ、オリビアには、とてもお世話になった。

ホストファミリーと出会った初日、僕は一瞬焦った。みんなはぞくぞくホストファミリーとハグして車に乗り込んでいった。しかし、僕のところには誰も来なくて、いきなり見捨てられたのかと思った。すると、一人の男の子が「Are you Rikuya?」と声をかけてくれた。その瞬間とても安心した。「いきなり危ないな」と思いつつ、車に乗り込んだ。しかし、そんな不安は一気に吹き飛んだ。車の中でやさしい英語で話しかけてくれた、ギッテ。やさしい笑顔でマークスも話しかけてくれた。



家に着いた。とてもステキだった。けっして大きいわけではない外国式の横型のマンションだったが、とても魅力的に見えた。まず、いきなりおやつの時間になった。僕の好きなくだものやパン、コーンフレークなどがぞくぞくでてきた。すると、ギッテがモモを指さして、英語で「日本語では何というの」と聞いてきたので、「ももです」と教えると、理解してくれた。その後も「コンニチハ」「イタダキマス」などなどたくさん教えたものの、結局それ以後、イエンステッド家では、ももだけが採用された。

そんな話をしていると、妹のオリビアが帰ってきた。照れくさそうにしていたが、とても笑顔が可愛かった。そして僕はオリビアの部屋で生活させてもらうことになった。その後、



マークスに呼ばれた。「ゆっくりしたいな」とは、思ったが行くことにした。部屋に入ると、いきなり目の前にギターがあった。「マークス、弾けるの?」と聞くと、弾いてくれた。とにかくうまかった。今度は、サッカーをすることになり4人で近くのゴールつきの芝生に行った。マークスはサッカーも上手で、楽しかった。

こんないきなり盛りだくさんな一日から始まった。あれから、もう一週間。早かった。それだけに、別れが辛かった。この一週間は一生の思い出だ。

研修テーマ

イーエスコウ城と食文化について

幌別中学校 2年 伏見 堯師

僕は、デンマークで2つの事柄について調べました。

1つ目は、イーエスコウ城についてです。

イーエスコウ城というのは、登別の名所である、マリパークニクスのモデルになった城です。この城は、1階、2階、屋根裏と分かれていて、1階は「宴会場」、「鹿の廊下」、「リーボーの部屋」の3部屋あり、2階が、「北の塔」、「ビクトリア朝の部屋」、「音楽の部屋」、その他にもあと6つの部屋がありました。屋根裏が、「陶器の部屋」と、「木の人形」の2部屋だけでした。



今紹介したのは、見学が許されている場所であって、見るできない部屋も合わせると、66室もあります。その部屋の中で、一番興味をひかれたのは、屋根裏の「木の人形」です。この木の人形とは、その名のとおり、木の人形があり、それが枕に横たわっているのですが、その人形を枕から動かすと、クリスマスの夜に城が堀に沈むという言い伝えがあり、今まで一度も動かしてはいないそうです。実際見てみると、何本かの柱の中心に人形が横たわっていて、薄暗いライトで照らされているので、とても怖かったです。イーエスコウ城は、約600年も昔から存在する歴史的建造物です。これから、貴重な歴史あるものを守っていかねばならないと思いました。

2つ目は、食文化について調べてきました。

デンマークの食文化は独特で、見たことのない食べ物がたくさん出ました。デンマークに行く前にいくつか調べてきたのですが、ほとんど違いました。最近では、肉も食べられるようになったとあったけど、初日に食べたフリカデラ以外、肉類はほとんど口にしませんでした。そして、個人的に魚料理がとてもおいしかったと思います。名前は『サラム』といいます。初めて出されたとき、僕はパンかと思いました。しかし、切って中を見てみると、魚が入っていました。聞いてみると、鮭の周りにライ麦粉とほうれん草をつけて、焼いたものだそうです。食べると、外はサクツとしていて、中が魚でふんわりして、おいしかったです。



また、本当はクリスマスに食べるものだと聞いたけど、牛乳粥も面白かったです。牛乳の粥にナッツや、シナモンシュガーを振り掛けて食べました。正直、おいしいとは言えませんが、変わった味で面白かったです。その粥の中に、1つだけアーモンドを入れて、それに当たった人は、プレゼントをもらえるというお楽しみ付きで、食べながらも、食べた後も楽しめる料理だと思いました。

また、本当はクリスマスに食べるものだと聞いたけど、牛乳粥も面白かったです。牛乳の粥にナッツや、シナモンシュガーを振り掛けて食べました。正直、おいしいとは言えませんが、変わった味で面白かったです。その粥の中に、1つだけアーモンドを入れて、それに当たった人は、プレゼントをもらえるというお楽しみ付きで、食べながらも、食べた後も楽しめる料理だと思いました。

今回、デンマーク料理を食べて、日本の料理とは全く異なった味、形をしていて、珍しいものばかりでした。これから、その料理についてもっと深く調べて、日本料理に取り入れていけたらいいなと思いました。

「LEGO」について



鷺別中学校 1年 橋本 晃太郎

僕は、デンマーク発祥の世界的おもちゃ「レゴ」について調べました。

調べた理由は、僕が、小さい頃から親しみ、遊んでいたレゴについてもっと詳しく、そしてデンマークだからこその、日本にないレゴについて知りたかったからです。

レゴは1934年オーレ・キアク・クリスチャンセンによって発明され今では世界各国で親しまれています。「lego」という名前は「leg godt」（よく遊べ）から、きています。僕も数えきれないほどたくさんのレゴを持っています。中学生になった今も友達とレゴで遊ぶことが多くあります。僕の周りにもレゴを持っている人はたくさんいます。このことから、日本でもとても親しみ深いおもちゃであることがわかります。このことをふまえてデンマークでは、僕の調べたかった日本にないレゴについてとデンマークでのレゴの親しみについて調べました。



デンマーク派遣事業4日目、僕たち派遣団はレゴランドに行きました。行く途中のバスで僕は「Mikkel(ミッケル)」に「レゴを持っていますか?」と尋ねると、「持っているよ」と答えてくれました。その時、やっぱりデンマークでも幅広い世代に人気だなと思いました。



レゴランドに着き、それぞれのグループに分かれ見学しました。ジェットコースターなどのアトラクションはもちろん、そこに展示されているレゴの作品それぞれがとてもすごかったです。

見学終了時間30分前にレゴショップに寄って買い物をしました。そこで僕の目に飛び込んできたのが、金色のミニフィグのキーホルダーです。これは日本では、見たことのないものでした。その他にも僕の好きなスターウォーズのレゴも、日本では見たことのないタイプのものがありました。それは実際にデンマークで買ってきました。それからテーマにはありませんでしたが、デンマークのレゴは日本の価格より少し安いものもありました。これらのことを知ることができ、とてもよかったです。そして、この研究を通じてもっとレゴが好きになりました。これからもレゴに親しみを持ち、遊び、これからは生かしていこうと思います。

レゴブロックについて調べて

鷺別中学校 1年 佐藤 祐介

僕は、レゴブロックと言う世界的にも有名なおもちゃについて調べました。調べようと思ったきっかけは、小さい頃から遊んでいたレゴブロックが好きだったのと、デンマークにレゴランドがあるのを知ったからです。

レゴブロックと言うと、色がカラフルで様々な形、家・自動車・飛行機など作れない物はないかも知れません。一番の魅力は組み立て設計図には文字がほとんど書かれていなくて載っているのは丁寧なイラストです。イラストを見ながら誰にでも簡単に作れるのが特徴です。

しかも、「男女年齢関係なく夢中になれる」「飽きがこない」「創造力がわく」レゴブロックが愛されている理由だと僕は思います。



ところで、みなさんはレゴブロックがデンマーク発祥のおもちゃだと知っていましたか？僕は知りませんでした。レゴブロックは1934年にオーレ・キアク・クリスチャンセンと言う人が大工の棟梁をしていたが世界的な大不況で大工の仕事がなくなり木工の玩具と作り始めたのが最初です。

レゴという意味は「Play Well（よく遊べ）」と言う意味のデンマーク語の造語が「LEG GODT」からきました。

現在の形のブロックは、1958年に、離れない積み木として生産されました。

2013年の今でも80年以上愛されているのはすごいことだと思います。

デンマークにあるレゴランドは、1968年にデンマークのビルンに第一号がオープンしました。実際に行ってみると、辺り一面がブロックで出来ていて夢のような世界でした。デンマークの町並みはもちろん、世界の有名な建造物（自由の女神・金閣寺・ツタンカーメンなど）が忠実に再現されていて感動しました。特に印象的なのは、今にも動きだしそうな動物たち（おおかみ・北極くま・アザラシ）です。大人から子供まで楽しめる東京ディズニーランドのような所だと思います。まさに、夢の国でデンマークの財産だと思います。



最後になりますが、僕にとってレゴブロックは「最高のおもちゃ」です。20年、30年後、僕が大人になってもレゴブロックを大切に100周年には是非デンマークを訪れたいです。

デンマークの鳥について調べました

登別中学校 2年 坂口 太一

デンマークには、日本と同じようにたくさんの鳥がいます。中には日本では見るのが難しい鳥や、日本にも生息しているような鳥もいます。

登別で生活しているとカラスやスズメ、ハトなどをよく見かけます。デンマークでも基本的にカラス、スズメ、ハトをよく見かけます。ただ、登別で見かけるカラスやスズメ、ハトとは違うものもいます。中でもカラスが特徴的です。

登別でよく見かけるカラスは主に2種類です。「ハシブトガラス」と「ハシボソガラス」です。この、二種類以外にも「ミヤマガラス」、「ワタリガラス」、「コクマルガラス」などがいますが、ハシブト、ハシボソと比べると見る事が出来る確率は低いといえます。登別でよく見かけるカラス(ハシブトガラスとハシボソガラス)のからだは基本的に黒色です。しかし、デンマークで見かけるカラスのからだは、黒色、白色、灰色が混ざっているものが多いいました。もちろん登別で見かけるような黒色のカラスもいましたが、むしろ黒色のカラスよりも白色が混ざったカラスの方を多く見かけました。

この白色が混ざったカラスは「ニシコクマルガラス」というカラスで、日本では北海道で2例だけ目撃されている鳥で、見たくても極めて見る事が難しい鳥の一つです。

ニシコクマルガラスは、北アフリカからヨーロッパのほぼ全域、イラン、北西インドおよびシベリアと広範囲に分布している鳥です。主に地面に落ちているものを拾って食べるのですが、樹木から食料を得ることもあります。昆虫などの節足動物、草の種や穀類、人間の残飯、海辺に打ち上げられた魚などを食べます。また、さまざまな場所に巣をかけ、樹木のうろや断崖を選ぶこともあれば、廃屋や、場合によっては民家(普通は煙突を選びます)、時には針葉樹林に巣をかけることもあります。



カラスやスズメのほかにも、デンマークではたくさんの鳥を見る事が出来ました。「オオバン」、「バン」、「カルガモ」など日本でも見る事が出来る鳥も見られたし、日本では見たことも聞いたこともないような鳥も見ることができました。

デンマークで見た鳥(ニシコクマルガラス、オオバン、イエスズメなど)のほとんどが初めて見る鳥で、驚きと興奮が入り混じっていました。今回の研修で鳥の面白さをたびたび感じ、ますます鳥が好きになりました。そして、デンマーク以外の外国の鳥もたくさん見てみたいと心から思いました。

生活文化全般について

西陵中学校 1年 大友 琴響

私が調べたことは、生活文化についてです。なぜなら、日本とデンマークだと生活の違いがたくさんあると思うので、違いを自分の目で確かめたかったからです。

私が調べたことの1つ目は、デンマークに限らず、靴をはいたまま家にあがる文化があります。なぜ、そのようなことが習慣になったのかを調べました。調べた結果、私のホームステイをした家では、家族の方はみんな靴を脱いでいて、私は脱ぎませんでした。家に住んでいる家族などは、くつろぐために靴を脱ぎますが、家に来た客は、家族の気使いという感じで脱がないということがわかりました。



2つ目は、食についてです。私は、ご飯よりパンが好きです。日本だったら、食パンにジャムを塗って食べる人が多いです。けれど、デンマークだったら、どんなパンをどのようにして食べるのか調べました。調べた結果、日本と同じように食パンにジャムを塗って食べるという食べ方が一般的でした。ですが、ラスクのようなものやお米なども出てきました。お米は、日本とは違い、粒が大きく、硬くて、パサパサしていました。ラスクのようなものは、味がなくバターやジャムなどを塗って食べました。

3つ目は、民族衣装についてです。私は、着物や浴衣に興味があり、着付けを習っていました。デンマークには、どんな伝統的な衣装があるのか調べました。調べた結果、デンマーク語で **Folkedragt** というそうです。衣装は、上下つながっていて、丈が長いのが特徴です。

4つ目は、服装についてです。私は、服が好きです。同年代の女の子は、どのような服装をしているのか調べました。調べた結果、上の服は丈が短くて、下の服は、スキニーという服装が多いということがわかりました。逆に、スカートをはいている人が少なく、街で見かけませんでした。あと、デンマーク人は、ジーンズが大好きということがわかりました。

5つ目は、犬についてです。私は、犬を飼っていて、たまに犬の散歩をします。そのときに、よく見る犬、プードルやチワワなどが多いです。あと、日本生まれの犬で多いのは、柴犬ぐらいで、他の犬はあまり見かけません。デンマークでは、どんな犬を多く見かけるのか、また、デンマーク生まれの犬はデンマークで多いのかを調べました。調べた結果、黒い犬が多く、ラブラドルレトリバーが特に多いということがわかりました。日本と同じようにデンマークでは、デンマーク生まれの犬が少ないです。

私の将来の夢は国際弁護士です。外国の人が日本に来た時に、どのようなことで困るのかを、実際に自分が体験したことも、今後に生かしたいです。ホームステイをして、私は、食べ物、靴を脱ぐこと、物の価値観の違い、言葉の壁などに困りました。食べ物は、甘い物が多く、日本人にはあまり合いませんでした。又、食べ物の1つ1つの量が多く、全然食べられませんでした。

このような文化の違いを生かして、これからも色々なことにチャレンジしていきたいです。

日本の子育てとデンマークの子育て

緑陽中学校3年 楠 陸哉

僕は、子育てについてくわしく知りたいと思った。なぜなら、子育てが存在していなかったら、今、私たちはこの世に存在していなかったからである。デンマークでは、子育てが快適に行うことができるということなので、紹介する。

まず、日本の教育について。母親の子育てに関する悩みは近年、大きく増加しつつある。例えば、

- ・小さい子どもとの接触経験がないままに母親になった
- ・身近に子育てについて話ができる相手がない

このようなことから、子育ての負担感や育児不安が増加していることがわかる。しかし、なぜ子育てが不安と孤独な営みへと変わってしまったのだろうか。その1つの理由として、非行を含めた問題行動を起こした、思春期の子どもを持つ母は、「私の育て方が悪かったから」「どうしてこうなっちゃったのか」「子育てはずっと辛いものだった」などと、子育てに対する後悔と自責に肩を落としている母が多い。このようなことから、「子どもは産むと負担がかかるから産まないほうがいい」などと言った間違った声が増えているため、少子化が進んでいく。このままでは近い将来、高齢者ばかりで介護する人がいないなどといった、日本の国に関わる問題になってしまうのは明白である。

もちろん、政府も対策をとっている。主なものとして少子化対策基本法、次世代育成支援対策推進法、育児休業法、児童福祉法などといった法律があるがそれでも、現在の状況は、打破できていない。



そこで、注目してほしいのが育児休暇である。子どもを産みたくない理由の一つとして、長期間仕事を休まなくてはいけないことがある。育児休暇を終え、仕事に復帰するのは全員ではない。育児休暇の期間中、給与は支給を受けることができる。休業は法律により、定められている労働者の権利であるため事業者の規定がない場合でも、申し出により休業

することは可能である。問題がある場合、指導、勧告がなされる。基本、1歳まで必要だと認められると1歳半まで受給可能。以上が日本の子育てである。

デンマーク。母親は、最大50週間の育児休暇、男性は最大34週間である。またデンマークの消費税は、25パーセントであるかわりに小、中、高、大学すべて無償である。そして、実際に僕が見たデンマークの母親は、子どもに優しくも自立をうながしているように感じた。

また、今回派遣メンバーも訪れた「森の幼稚園」と呼ばれる幼稚園があった。僕は自由で、のびやかに成長している子たちがすごく幸せに見えた。その中には、木で遊ぶ子、器用にナイフで木を切っている子もいた。

このように、デンマークは、日本とは違う、独特な教育であることがわかった。

今は少子化が広まり、子どもの数は減ってしまっているがいつかすべての国が最高の条件で子育てができるような制度が整っていることを望む。



デンマークの環境意識を調べて

緑陽中学校 2年 埜上 満

今、日本では環境問題が深刻化しています。僕がこれから行くデンマークが環境先進国と呼ばれていると聞き、デンマークでは環境を守るためにどのようなことを行っているのか調べてみたいと思いました。

デンマークに着いて最初に目に入ってきたのは、空港の駅で歩くひとと自転車のひとでも楽に利用できるスロープ型の歩く歩道でした。

それを降りると、駅のプラットフォームに自転車を置いて待つひとと、自転車のマークのついた電車が目に入りました。電車に乗る時も段差がなく、自転車が乗りやすいようになっていて、スーツケースを持っていた僕たちも楽でした。コペンハーゲンに着くと、一面に広がる自転車が停めてありました。自転車用の道路や信号があって、次から次へと自転車が通っていきま



た。ほかにデンマークは、風力発電に力を入れています。デンマークは、2050年までに化石燃料をゼロにする目標を掲げています。それを実現するための大きなキーとなるが、風況に恵まれた地形を生かした風力発電です。デンマーク政府は電力消費における風力発電の割合



を現在の28%から、2020年には50%まで増やすことを明言しています。デンマークに行くと、電車に乗っている時、車に乗っている時など、たくさんの風車があり、その力の入れ方の強さを実感しました。その風車にはもちろん企業が所有するものもありますが、個人や共同で所有するものも多いとのこと。

ほかに、普段の生活ではどのようなことに取り組んでいるのでしょうか。ホストファミリーに聞くと、やはり分別には力を入れているみたいで、ホストファミリーの家でも分別に取り組んでいますし、フリースクールではプラスチックのごみを集めているみたいです。

いくつか質問をしていると、デンマークでは資源を大切にしようとする意識が日本より高いということが分かりました。なので、車を使わずに自転車を使うようにしたり、再生可能エネルギーと呼ばれている風力発電に力を入れたり、リサイクルをするために分別に力を入れたりしています。日本でも最近こうした動きが出始めているので、その気持ちを忘れずに、環境問題に取り組めば、環境問題を少しでも解決に近づけるとと思います。

デンマークとの生活の違いについて

緑陽中学校 1年 菊地 智成

ぼくは、デンマークと日本の食事や家の違いについて調べることにしました。デンマークは日本よりも食事の量が多いとか、家のサイズが大きいと聞いたので、実際はどうか興味を持ちました。

まずデンマークの食事からです。みなさんは、「デニッシュ」が、デンマークのパンだということを知っていますか？ぼくは知りませんでした。次にぼくが食事でびっくりしたことは、米は米でも白いのですが、それ以上に「ねちょねちょ」していたことです。



僕のホストファミリーのいつもの食事について書きます。

朝 7:30 コーンフレークが何種類もあり、そのコーンフレークに牛乳ではない白いドロドロしたものをかけていました。後でこれがヨーグルトだったと知りびっくりしました。

昼 10:00 デンマークではこの時間がお昼で日本ではおやつの時間です。お昼は、日本の食パンよりかたいパンの上にサラミがのったものと、デザートのカキ氷でした。

夜 19:00 ごはんは、ローストローフ、パプリカ、じゃがいも、ポテトチップス、ニンジンです。夜ご飯は基本的に、19:00 から 20:00 までです。みんな集まってパーティをするときは3時間くらいかかり、子どもは食べ終わった後、遊んで、大人は、お話しなどをしたりします。1食の食べる量が多いです。また、デンマークで気が付いたのですが、食べ物のお皿を他の人に回すときは必ず時計回りで回していたということです。ぼくがデンマークに行って一番おいしかった食べ物は、ローストローフ、パプリカ、チーズの3つでした。

デンマークの家についてですが、家の大きさは、自分が予想していたとおりに、大きく、2軒半の大きさでした。他に庭には、ブランコが3つあり日本ではあまり見慣れない光景を見られました。家の中では、ふだんは家族の人たちはくつをはいていたのですが、ぼくがホームステイをしたらぬいでくれました。その時、自分がずっと靴を履いているのは、飛行機の中で、きついと感じていたのが、とても嬉しかったです。でも、くつ下が黒くなってしまい、やっぱり靴をはいていたのが、分かりました。



デンマークの浴室には、シャワーとバスタブが別々にありました。シャワーは、日本のお湯を出すところが違って、パチンコの玉を出すところみたいでした。シャワーには、日本のドアとちがって、防水のカーテンがかかっていた。カーテンなので、少し水がはねてしまうこともありました。バスタブは、基本的に使わず、使おうとしたら、浴槽のかべからジェットの水が使えていました。部屋は、家も大きいので、部屋数が7室もありました。その1つ1つの部屋も大きかったです。部屋は白夜ということで、9時30分くらいまで明るく、それ以降は電気をつけるのはいいのですが、ライトの数も少なくうす暗かったです。

デンマークの福祉と教育

登別明日中等教育学校 3年 長谷川 季里

何故、私はデンマークの福祉と教育について調べようかと思ったかと言うと、私の母親は介護士で小さい頃から福祉に興味があり、日本の福祉制度をふまえて外国のと比較するとどうなんだろうとずっと思っていたからで、教育については私が一番興味があった事柄だったからという理由です。

日本の社会福祉制度は、戦後から経済成長に伴って様々な福祉制度が制定され、進化し続けています。しかし、医療や福祉サービスを満足に受けるとしたら莫大な費用がかかり、働いていない高齢者にはいっぱいいなのが、日本の医療・福祉制度の現状です。それに比べデンマークは「超福祉国家」と言われており、その名の通り福祉サービスが充実しており「必要な人に、必要なとき、必要なだけ、無料で」というのがデンマークの福祉理念です。理念の通り、医療費は無償だし、必要ならば扶助もされる。このような事が、デンマークが「超福祉国家」と呼ばれる理由だと思います。

日本も少しずつでも良いからデンマークの良いところを取り入れていって、少しでも「老老介護」や「介護疲れによる事件」を減らしていくことが、今後の福祉制度での課題だと私は考えます。

今回私が訪れたリングの老人ホームには、日本では考えられないトレーニングルームがありました。あと中庭が広大で景色も綺麗で、自分も老後はこういう所で過ごしたいなと思いました。



デンマークの教育は、

0～1歳	家庭で両親と過ごす
1～3歳	プレ保育園に通う
3～5歳	幼稚園に通う
6～16歳	小学校入学から中学卒業まで過ごす
16～19歳	高校へ通う
19歳～	大学へ

となっており、日本とそんなに変わりません。

今回、私はホストにオーデンセの大学へ連れて行ってもらいました。

大学内は想像以上に大きく、日本の大学より広い気がしました。

その後、コペンハーゲンへ行ったついでにコペンハーゲンの大学も見ました。

そこは建物が何個もあり、オーデンセの大学より何倍も広く大きかったです。

滅多に外国の大学を見学する機会はないので、そのような機会を設けてくれたホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいになりました。

フリースクールの様子も自由な感じがしました。

日本ではありえないことがおこなわれていて、すごくびっくりしました。



感想文

デンマークの思い出

幌別中学校 2年 伏見 堯師

デンマークで過ごした日々は、今でも忘れられません。出発1週間前から緊張と興奮で胸がいっぱいでした。出発の日の1日前になると、興奮で寝ることができませんでした。出発の日、家族や先生、校長先生にあいさつをした後、バスに乗り込みました。デンマークには、千歳空港から成田空港、そしてコペンハーゲン空港という順にデンマークへ行きました。成田空港からデンマークまで、約12時間かかります。しかし、機内では退屈にならないようにラジオを聞くことができたり、ゲームや映画も見ることができました。しかし、行く途中の機内はたまたま映画を見ることができず、とても退屈でした。



コペンハーゲン空港についた頃には、もうくたくたでした。入国手続きを済ませて周りに耳を傾けてみると、外国語が聞こえました。改めて、外国に来たんだなと実感しました。その後、電車でコペンハーゲンまで行き、そこからホテルに行きました。チェックイン後、チボリ公園に行きました。

チボリ公園は、日本でいう遊園地みたいなものです。チボリ公園では、5Gを体験できるアトラクションに乗りました。日本では体験できないなと思いました。2時間ぐらい楽しんだ後、ホテルに戻り、すぐに寝ました。自分でも怖いほどすぐに寝ることができました。

次の日は、また電車でオーデンセ駅まで移動し、道子・ペダスンさんに会い、アンデルセン博物館や教会などを見学しました。どこも興味深く、とても楽しむことができました。すべて見終わると、今度はリングゲ駅に移動し、ホストファミリーと対面します。初めて会った時、僕は少し緊張していたけど、ホストの方からにこやかに話しかけてくれて、緊張がほぐれました。その場で、あいさつ、自己紹介などを終わらせると、すぐにホストの家に行き、家の中を案内してくれました。家の外には、小さな小屋があり、その中に小さなウサギの赤ちゃんがいました。思わず、「So cute!!」と言うと、ホストは笑ってくれました。そしてひと段落した後、お土産を渡したり、買い物に行ったりしました。夕飯は、事前研修でも食べた、デンマークの伝統料理、フリカデラを食べました。ものすごくおいしくて、おいしいおいしい言っていると、ホストも、うれしいと言ってくれました。

次の日、僕はリングゲフリー校に行って、生徒たちと交流しました。放課後は、生徒たちとサッカーをして遊びました。この後、家に帰って、ホストたちが作ってくれたケーキを食べました。すごく甘くて、僕にぴったりの味でした。

そして次の日、リングゲフリー校の中学1年生とレゴランドへ行きました。小さな町並から大きなドラゴンまで、すべてレゴで出来ていて、えっ!?これもレゴ?というものまでレゴで作られていたので、驚きました。中の様子だけでなく、アトラクションにも驚かされました。



思いっきり水がかかるアトラクションや、いきなり垂直に落ちるジェットコースターなど、日本にはないようなものがたくさんありました。リングに戻り、ホストの方々と食事会をしました。終わると、家に帰り、寝なさいと言われたので寝ることにしました。

次の日は、リングフリー校で、練習していたアトラクションを披露して、授業を体験しました。授業が終わると、森の幼稚園や、老人ホームに行きました。日本とは違う形の施設を見学出来てよかったです。

そして、次の日が、ホストと過ごす最後の日になりました。その日は、イーエスコウ城を見学しました。城はとても大きく、すべての部屋を見るのに、とても時間がかかってしまいました。そこには、城のほかにもバイクや車の展示館、巨大な迷路もありました。展示館では、とても古い車やバイクがあり、とてもかっこよかったです。迷路は、30分以上迷ってしまい、とてもつかれました。最後に、イーエスコウ城にお土産を渡して帰りました。最終日は、初めのホストではなかったのですが、ゆっくりと最後の時間を過ごしました。

そしてお別れの日、ホストの方々全員と握手と別れの挨拶をしました。悲しきで、泣きそうな人もいました。別れなければいけないのは知っていますが、それでもうるっときました。

今回、デンマークでの貴重な体験をして、日本では絶対に学ぶことのできないことを学び、体験をしました。これからは、この貴重な体験を様々なところで活用し、生かしていきたいと思いました。

最高の思い出



鷺別中学校 1年 橋本 晃太郎

「ガガガガガ……」音を立てて、上がっていく。

僕の一番の思い出は、レゴランドでアトラクションを楽しんだことです。音を立て上がって行き、落ちる時のスリルは今でも忘れられません。もともとジェットコースターなどの絶叫系のマシーンが好きなわけではありませんが、レゴランドではたくさんのアトラクションを楽しみました。まず、一番最初に乗ったのは「Viking River Splash」という名前のアトラクションです。これは、大型のゴムチューブのような10人乗りの乗り物に乗り水の流れにそって進んで、最後にはものすごいスピードで一気に落ちるというものです。このアトラクションは日本にいるときにテレビで見てその時から、とても乗って見たかったのでよかったです。あまり怖くはありませんでしたが、とても水がかかりました。乗った後はとてもすがすがしい気持ちになりました。

次に乗ったのは、「polar X-plorer」という名前の最近、新しくできたアトラクションです。このアトラクションはとてもスピードがあり、上下左右の動きがはげしく目も開けられませんでした。終わったかと思い、目を開けるとレールの上に止まっており、巨大スクリーンにミニフィグがクライミングしている映像が流れました。そして、映像のミニフィグが落ちるとともに、ジェットコースターごと垂直に落ちました。



ドッキリ的な要素も入っており、とてもスリルがあつて楽しかったです。もちろんアトラクション以外にも、そこに展示されている作品それぞれがすばらしかったです。

もう一つ僕のデンマークでの思い出は、ホームステイ先の人などと学校で遊んだことです。デンマークではフットサルをする事が多かったです。でも僕はトランポリンで遊んだことの方が楽しかったです。トランポリンといっても一般的な家庭用のものではなく、しっかりとした体操用のものだったので、一層高く飛ぶことができおもしろかったです。しかも、壁にはモニターが設置されており、自分が中心を飛んでいるかなどを確認できるというすごいものもありました。

フットサルをする時は、しっかりしたゴールを用意してやりました。デンマークの人たちはみんな裸足でやっていたので、僕も裸足でやってみましたが、とても足が痛かったです。

デンマークではとても楽しい思い出がたくさんできました。このような経験ができたのも皆さま方々の協力があつての事業なのでとても感謝しています。そしてこのような貴重な経験ができ本当にうれしく思います。

デンマークでの思い出

鷲別中学校 1年 佐藤 祐介

僕は、8月12日から8月19日までの7泊8日で、登別市の友好都市であるデンマークのファボー・ミッドフュン市に行きました。応募理由は、日本とデンマークの文化の違いを知り、日本以外の国の事を学びたいと思った事と、外国人の家にホームステイすることが、親元から離れて一人で経験できるいい機会でしたので参加することにしました。



デンマークには、成田空港からコペンハーゲン空港に着くまで11時間という長い時間がかかり、ゲームをしたり寝たり、長時間、飛行機の中でしたので疲れました。しかし、デンマークに着いてみると、まわりの景色がきれいですごく感動しました。ホテルに着いてからは、すぐさまチボリ公園に向かいました。チボリ公園は広くて、公園の中に入るのにお金がかかり、乗り物がたくさんある公園というより日本の遊園地のような感じでした。デンマークは日本よりマイナス7時間の時差があり、ホテルに帰るとすぐ寝てしまいました。

翌日は、道子・ペダスンさんとアンデルセン博物館に行きました。銅像やアンデルセンがつくった切り絵などがありました。アンデルセンと言うと、裸の王様、みにくいアヒルの子など僕が幼い頃よく読んでいた作者でした。

博物館の後は、オーデンセ駅からリングヘ列車で移動し、それぞれのホストファミリーと会いました。僕は、英語を小学生の頃から習っていて、自分の英語がデンマークの人たちに通用するか心配でした。最初は緊張しましたが、ホストの方から話しかけられて、それがきっかけで緊張がほぐれました。ホストの家に着くと、エマが家を案内してくれました。家はとても広かったです。エマはかわいい猫を飼っていました。その後は、日本でも有名なWiiのゲームや、千と千尋の神隠しをみました。

デンマーク3日目は、エマと一緒に車でリングフリー校に行きました。学校は広くてきれいな学校でした。朝会・校内見学・授業に参加しました。授業では、自己紹介をしました。リングフリー校は日本の学校とは異なることがたくさんありました。ランチタイムが早い、携帯は自由に使える、休み時間が多い、日本の学校では考えられないとても自由な雰囲気でした。放課後はみんなでフットボールをして楽しかったです。

デンマーク4日目は、ノーアエア校で登別の紹介をし、学校を案内してもらいました。

その後は、リングフリー校の生徒達と一緒にレゴランドに向かいました。

レゴランドは町並み・自由の女神・動物などがレゴブロックで作られていて、ブロックで作ったとは思えないくらい本物そっくりでした。

アトラクションの数もたくさんあり、ジェット



コースターは怖かったけど3回乗りました。



その他にも飲食店やお土産屋さんなど、たくさんありました。日本では100円で買えるコカコーラは、デンマークでは30クローネ位して、日本円で450円位掛かります。高い！！！！

夜は、ホストファミリーと食事会に参加しました。ホストファミリーのお母さん達が作ってくれた料理は、とても美味しかったです。食事の後は、鬼踊りをホス

トファミリーの方々と一緒に踊り盛り上がりました。とても楽しい一日でした。

デンマーク5日目は、リングフリー校の朝会でアトラクション・登別の紹介を英語でしました。授業体験ではドイツ語の勉強をしました。放課後は、図書館と森の幼稚園と老人ホームに行きました。

デンマーク6日目は、エマとクラスメートのヨナスとフレデリックとホストファミリーと一緒に、イーエスコウ城に行きました。イーエスコウ城は、マリンパークにそっくりでした。城の中には、武器やはく製、それに呪いの人形もありました。呪いの人形は、見た目にもすごく威圧感がありました。城の外には巨大な迷路がありゴールするまでに15分かかりました。この日がホストファミリーと過ごす最後の日だったので、夕食はピザをご馳走になりました。



デンマーク最後の日は、リング駅までお父さんが車で送ってくれました。駅にはクラスメートも集まっていました。ようやく慣れた頃に別れなければならなかったのが寂しかったです。

今回の海外派遣が無ければ、デンマークについて国の名前は知っていても、文化の違いなどは、行ってみないと分からなかったし、学べなかったと思います。デンマークの税率は平均25%です。福祉先進国と言われている。教育機関の学費は、大学まで無料で、医療費は手術代を含めて無料です。しっかり徴収して還元する国です。日本では考えられないシステムです。今まで一週間家族と離れた事もありませんでしたし、この派遣が無ければホームステイする事も無かったかも知れません。最初は不安も一杯でしたが、自分が知っている単語を並べて会話しコミュニケーションをとりましたが、もっと英語を学ばなければと実感しました。このような体験が出来たことに感謝しております。今度はデンマークに留学したいと思っています。

最後になりますが、海外派遣の事業の関係者の皆様や、サポートして下さった先生方、僕を受け入れてくれたホストファミリー、現地のクラスメートありがとうございました。

日本から離れた一週間

登別中学校 2年 坂口 太一

デンマークへ行くのを僕はまだ派遣が決まっていない5月のときから、楽しみにしていました。なので、派遣が決まったときには、すでに頭の中はデンマークのことでいっぱいでした。

僕は、日本から離れたのは今回が初めてです。なので、初体験のことばかりでした。パスポートを取得したこと。入国手続き。出国手続き。機内食。数え切れないほどありますが、やはり、外国人に囲まれ、日本語が通じない中で一週間過ごしたことが、僕にとって一番の経験になったと思います。

ホームステイをしていて不便だと感じたことは、日本語が使えないことです。というより、僕が簡単な英語しか使えないことです。常に電子辞書を持っていないと不安でした。ホームステイが始まって迎えた最初の朝に「Good morning」と言われた時、とっさに返したものの心の中では自分でもびっくりするくらい緊張し慌てていました。

しかし、日本語が通じなくて不便だと感じたのはこの日だけでした。2日目からは少し慣れてきたのか、それほど不便だとは感じなくなりました。簡単な英語しか使えないのは初日から何も変わっていませんが、ジェスチャーをつけて話せば単語だけを並べていても、だいたい伝わったからです。自分では分かりませんが、失礼なことも言っていたのかもしれませんが、でも、僕のホストファミリーは常にやさしく接してくれました。



リングフリー校では、みんなで何度もサッカーをしました。サッカーをしてほしいみんなと仲良くなりました。なかでも、ミックルと仲良くなりました。一緒に写真を撮るたくさんとってくれました。文化の違いにも触れることが出来ました。リングフリー校の教室では、土足の生徒もいれば、靴下の生徒もいました。日本では考えられませんが、家の中でも同じでした。

正直、ただただ「汚いな」と思いました。また、授業中でもお菓子を食べていたり、ガムを噛んだりしていました。私服で登校し、イヤリングをしている生徒もいました。サングラスを頭につけている生徒もいました。机に座っている人もいました。「いいのか？」と最初は思いましたが、先生が話しだすと真剣に聞いて、指示を出されると集中して取り組んでいました。だから自由な部分が多いんだなあと思いました。その他にも食事、シャワー、トイレなど日本と違うところがたくさんありましたが、そういうことも全て面白かったです。

首都コペンハーゲン、東京のように高層ビルが並んでいるのではなく、おしゃれな町並みでした。リングは自然が多く僕の好きな鳥がたくさん見られました。オーデンセの町はお店がたくさんあり楽しい場所でした。



また、僕が行った町には全てセブンイレブンがありました。

僕には、全てが良く感じ、将来の夢が一つ増えました。自分でお金を稼いでもう一度、デンマークへ行くことです。この研修を通して、世界は広いということと、世界は狭いということを感じました。半日でデンマークへ行けるというのが、そもそもすごいことだと思いますが、半日で行けるなんて意外と狭いんだなあと思いました。デンマークのほかにも

たくさんの国があるので、その国々に違った文化があると思うと、世界は広いなあということも感じました。

まだ中学生の僕達がこんなにもすばらしい経験ができたのには、たくさんの人が関わって力を尽くしてくれたからだと思います。お礼の言いようもありません。僕も、他人のために力が尽くせるような大人になりたいと心から思います。

デンマークで過ごした日々の思い出

西陵中学校 1年 大友 琴響

私は、デンマークに行くということが決まった時から、とても楽しい気持ちで毎日を過ごしていました。今回一緒に行く、他の学校の初めて会う人達やデンマークの人達と、短いけど過ごす日々の事を考えない日がないくらい楽しみでした。私は、人見知りで、初めて会う人と会話することがとても苦手です。事前研修では、一緒に行く方たちとあまり話すことができませんでした。ですので、デンマークに行くのは楽しみでしたが、それとともに、なじめるかどうかという不安もありました。ですが、いざ出発すると、すぐになじめて、とても仲良くなれました。

デンマークにつき、まわりの人が日本人じゃないと思い、改めて自分がデンマークにいるということを感じました。また、すれ違う方々が「Hello.」と声をかけてくれたり、「Welcome to Denmark.」と、私を受け入れてくれました。入国してすぐにデンマークは、温かい国だと感じました。

1日目は、チボリ公園で遊び、ホテルに泊まりました。チボリ公園は、広くて、建物やアトラクションがとても可愛かったです。夜ご飯は、チボリ公園で食べました。食べ物を頼むときに全然英語が分からなくて、一緒にいた長谷川さんに頼ってしまいました。ホテルでは、金だらけのエレベーターがとてもすごかったです。ホテルの朝食はおいしいと聞いていて、とても楽しみにしていました。実際食べたら、期待を全く裏切らずとてもおいしかったです。

2日目は、オーデンセという街で昼を過ごし、夜は、ホームステイ先で過ごしました。オーデンセには、アンデルセンに関するものが街にたくさんありました。中でも、一番心に残ったのは、アンデルセン博物館で見た絵です。それは、アンデルセンが生まれた時から死ぬ時までの印象深い出来事が描かれた絵でした。初めて過ごすホームステイ先では、とても緊張してあまり話すことができませんでした。その日の夕食はピザで、分けてもらい、その大きさは4分の1もありました。私は、1切れしか食べられませんでした。

3日目は、ホストの学校に行き、授業を体験し、その後はホストと過ごしました。学校では、英語で自己紹介をしました。私は、授業で自己紹介をする前に、席が近い女の子と少し仲良くなっていたので、緊張せずに自己紹介ができました。授業が終わり、ホストのお母さんの家に行きました。ホストの趣味である乗馬を見に行きました。最初は、見るだけだと思っていたのに、私も乗ることになり、少しこわかったのですが、楽しめました。

4日目は、ホストの学校の近くの学校を訪問し、ホストといっしょにレゴランドに行き、学校で行われた食事会にホストファミリーといっしょに参加しました。

レゴランドでは、レゴで作られたもののクオリティーが高すぎて、とてもおどろきました。食事会では、寿司があり、少し落ち着きました。





5日目は、ホストの学校で、登別紹介と鬼踊りをしました。鬼踊りは、練習をしてくれて、みんなで踊りました。とても嬉しかったです。

6日目は、イーエスコウ城に行き、その後、ホストファミリーと過ごしました。イーエスコウ城は、とても、ニクス城に似ていました。ホストファミリーの家で映画を見ました。

7日目は、ホストファミリーとお別れする日でした。まだ、いっしょにい

たいと思うぐらいさみしかったです。

8日目は、日本に帰りました。成田空港で和食を食べられて、日本に帰れたんだと、自覚しました。

この8日間は、私が成長をする、短いけどとても大きな8日間でした。この経験を生かし、いろいろなことに、取り組んでいけたらと思います。

デンマークでの思い出

緑陽中学校三年 楠 陸哉

8月12日、ワクワクしていた。その頃は、まだみんなと完全に慣れ親しんでいなかった。その不安はあったが、きっと仲良くなるとは思っていた。たくさんの人に見送られ、バスで出発。「いよいよかー」と、思っているとすぐに千歳に着き、今度は飛行機で、成田に向かった。「成田に着いたー」と、思っていると、すぐに国際便に乗り換え出発。僕は海外に行くのは初めてだったので、11時間のフライトが余計に長く感じた。楽しみにしていた映画は故障でみられず、ゲームも15分であきた。多分、この時間が1週間で一番きつかっただろう。

そして、デンマークに着いた。短いようで長い1週間が始まった。

デンマークでの1日目。初の外国の空気を吸った。

ホテルでチェックインを済ませ、チボリ公園に向かった。そこは遊園地だった。外国らしいアクティブな乗り物がたくさんあり、楽しんだ。この頃にはメンバーは仲良くなっていた。とても疲れて次の日。

2日目。駅からオーデンセに向かった。道子・ペダスンさんに町の案内をしてもらった。オーデンセは童話作りで有名なアンデルセンの出身地で、彼に関する建造物がたくさんあった。その後、ステイ先のリングゲに向かった。オーデンセからは近くの町なので、あっという間に着き、ホストファミリーと対面。優しくてにぎやかなファミリーで、とても安心。

3日目。マークスと一緒にリングゲフリー校へ。そこでは、小学校1年生から中学3年生までが同じ校舎だった。その後サッカーをしようということになり、デンマーク VS 日本で楽しく遊んだ。楽しくて、「すぐに明日がきてほしいなあ」と、思っていた。

4日目。はじめにノーアエア校に出発。校内見学を終え、いよいよレゴランドへ出発。レゴは好きなので、とてもワクワクしていた。そこには、大きなレゴの町があった。「素晴らしい」と思うものばかりであった。夜は、フリースクールで食事会。それぞれのホストマザーがウデをふるい、おいしい料理が並べられていた。その中には、なんとすしがあった。なつかしい気分。そして、たくさん練習した鬼踊りを披露。みんなの笑顔が見られたので、本当に「練習してよかった」と感じた。



5日目。フリー校で登別の説明。さすがにあんなに団長に熱血指導していただいたので、成功^^。団長に感謝。午後は森の幼稚園、老人ホーム、図書館見学。僕のメインの目標である体験だったので、しっかりと様子を見てきた。

6日目。いよいよマリパークのモデル、イーエスコウ城。ここには代々、貴族が住んでいる。中は美しい西洋の高級そうなものばかり。見とれた。その後はなぜかホストと一緒に海へ。当然寒い。が、いい思い出のひとつになった。



7日目。出発。

ホストとの別れが辛かった。家を出るとき感謝の手紙を読んできた。感動してもらえたようだった。本当によかった。

この1週間は、僕にとって一生忘れないよい思い出になった。

デンマークでの思い出

緑陽中学校 2年 埜上 満

楽しすぎて気づいたら、もう日本の家についていたようなデンマークの旅。でも、1週間の思い出を振り返るときりがありません。



「パスポートはあるな、よし。」

何度もパスポートチェックして、市役所に行った出発の朝。市役所でも、移動中のバスの中も、千歳空港でも、ただパスポートだけを気にして1週間の旅ははじまりました。

コペンハーゲンの空港に着いた時から、日本とは違うデンマークの空気が流れていて、空港で流れるアナウンスが外国語、看板などの表示も外国語、すれちがうひとはみんな外国人と、いよいよデンマークに来たんだと、はじめて実感することになりました。

チボリ公園やオーデンセの街などを訪問し、すでにデンマークを思う存分に楽しんだ2日目。いよいよ今日からホームステイが始まるかと思うと、楽しみな気持ちと同時にとても不安な気持ちでもありました。日本とは全く違う生活文化、慣れない外国語に囲まれて過ごした数日間でしたが、ホストファミリーのみなさんがとてもやさしかったおかげで、デンマークの生活にもなれ、1日目にはあまり話せなかった英語にも自信がつき、コミュニケーションをとるのがとても楽しかったです。

そのほかにも、いろんなところに連れて行ってもらったり、ほかのデンマーク人の友達と交流できたおかげでデンマークの文化にたくさん触れることができたし、たくさんのひとと交流できたので楽しかったです。

デンマークはどこも昔の建物が残っているところが多く、また、車道もアスファルトではなくレンガでできているところも多くあり、街並がとてもきれいでした。学校も日本と全く違っていました。

こんな素晴らしいところで1週間も過ごせてとてもうれしいです。デンマークでは楽しただけでなく、たくさん学ぶことがあったり、いろんなことがあって、今はもう1度デンマークに行きたいと思っています。



デンマークでの思い出

緑陽中学校 1年 菊地 智成

ぼくは、1週間デンマークに滞在しました。

そこで初めて感じたことは、チボリ公園に行った時、デンマークの物価が高いということです。1回乗り物に乗るのに日本円で約1,000円かかり、さらに入場料が約2,500円かかるので、チボリ公園だけで3,500円もかかりました。ぼくが乗った乗り物は、4人乗りのボートで、陸哉君、太一君、満君と一緒に乗りました。そのゲームは、ボートに乗りながら、マトをねらうゲームで、マトをねらうところに、トラップがありハラハラ、ドキドキでとても楽しかったです。

ホストと初めて対面した時は、とても緊張していましたが、ホストファミリーの人に会えたのでよかったです。家はとても大きかったです。家に入ったら、まず、「ここの部屋を使っているよ。」と言われたので、少ししかわからないデンマーク語で“タック（ありがとう）”と言い、その時も緊張しました。とにかく1日目は、緊張してばかりでした。



ものすごくこわくて、足元もふらふらしてしまいました。

マリパークは、イーエスコウ城がモデルになっています。イーエスコウ城で、一番感動したことは、城が周りの水に映っているのがとてもきれいだったことです。中は、とても広く途中でみんなとはぐれてしまい、あせりました。その他、拳銃や、剣などがあり、意外と地味だと思いました。しかし、色などが地味ではなかったです。イーエスコウ城は、とてもいい思い出になりました。



デンマークを訪れて

登別明日中等教育学校 3年 長谷川 季里

最初は言語、思想、文化などが日本とは全く違う環境で「ホストファミリーに受け入れてもらえるのか。」「言葉が通じなかったらどうしよう。」「現地で何かトラブルに遭ったら…」など私は不安でたまりませんでした。

しかし、いざ現地へ行ってみるとそんなのは杞憂に過ぎず、様々な発見や新鮮な出来事の連続で毎日が楽しかったです。派遣団のメンバーとも事前研修では最低限の会話しか交わさなかったのに2日目くらいから徐々に打ち解けられました。

私のホストは女の子が二人でした。その二人は私を湖やお店などいろんなところに案内してくれ、コミュニケーションも私が理解できるように携帯電話でデンマーク語から日本語に変換してくれました。私は自分の稚拙な英語を一生懸命聞いてくれる様子に感謝の気持ちと少し「申し訳ない」という気持ちになりました。

私が一番印象に残っているのはレゴランドで、特に絶叫マシーンが残っています。絶叫マシーンが大嫌いと言われたとき断ろうと思いましたが、「外国の絶叫マシンは違うかもしれない。」と感じ乗りました。最初は怖くて安全バーを下ろす手が震えていましたが、徐々に慣れていきました。でも、怖いものは怖く、途中何度か泣きそうになりました。その時に必ず違うホストの子が「大丈夫？」と聞いてくれ、その優しさが心に沁みました。

森の幼稚園は、こんなところで幼い時間を過ごせたら最高だなと思いました。老人ホームにしろ、教会、図書館にしろ、リングの町はどこも最高なところばかりでした。是非、機会があれば、もう一度訪れたいです。

金曜日、私は放課後ホストファミリーに連れられコペンハーゲンのリトルマーメイドを見に行きました。行きも帰りも車中では寝て過ごしました。コペンハーゲンに着いて少し歩いたところには、かの有名なリトルマーメイドの像が……。 「世界三大がっかりスポット」に数えられているだけあり、とても小さかったです。その後、徒歩で散策しました。



デンマークの王宮へ行き、兵隊さんと写真を撮ったりなど最高の1日でした。本当に様々な経験をさせてくれたホストファミリーには感謝してもしきれません。

この1週間という長いようで短かった研修は私の中で何事にも堪えがたいものとなりました。経験をはじめ、様々な人と出会い私の中の何かが変わった気がします。このような機会を設けて援助して下さった市役所の皆さん、デンマークへ行くことを応援し援助してくれた親には感謝の気持ちでいっぱいです。この研修で学んだことをこれからも下の世代に受け継いでいきたいなと思います。

引率者報告書

平成 25 年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業を終え

団長 登別市教育委員会教育部学校教育グループ 櫻井 貴志

○8月12日（月）1日目

朝は全員 10 分前に集合できた。保護者や企画調整の方々だけではなく、各中学校の校長先生や担任の先生も何人か見送りに来てくれた。出発の挨拶を全員でしたが、相変わらず声が小さい。千歳空港では、柴山さんが説明してくれているのに、何人かがうわの空、どこかの場面できちんと指導しなければと思った。このような状態なので異学年同士でバディを組ませることにした。生徒は興奮気味なので、こちらは冷静にならなければと感じた。



その後、皆さんと別れ、搭乗口に向かった。（この時、コペンハーゲンまで発券してもらえた人ももらえなかった人がいた。）成田まではあっという間、本当の地獄が待っているのはこの後で、そのときは知る由もなかった。成田では意外と時間がなく、両替はできなかった。



飛行機に搭乗すると、すぐに時計の針を戻した（AM5:00になってしまった）。朝食をいただき、何度かCAに話しかけられたがうなずくことしかできなかった。酒が入り、陽気な外国人が増えてきたが日本人は総じておとなしい、本当に日本人でよかったと思った。生徒はというと、映画が機内トラブルのため見られないということで、テトリスばかりしていた。時間を持てあまし、窮

屈ということでストレスがたまっているようだったが、さすがに寝付ける生徒は少なかった。

定刻通りに到着、換金後、アシストとともにホテル「リッチモンド」へ、コペンハーゲンの街並みは美しく、童話の世界のようだった。また、夕方6時だというのに白夜ということで明るく、活気が感じられた。ホテルへの道中、怪しい人が近づいてこないように目を光らせ生徒の安全管理に努めた。アシストに聞くと、スリや盗難が多いらしい。ホテルに着くと、生徒がチボリ公園に行きたいと言ったので、荷物を置いて出掛けた。



入場料は一人 95dkk（約 1700 円～団費で払う）乗り放題だと思っていたが、券一枚 25dkk を買って乗らなければならず、円安なので高い

高い。3時間ほど自由時間とするが、途中何度か雨が降った。みんなの表情が生き生きとしていて緊張もほぐれてきたようだ。帰りはやや疲れた表情を見せていたので（24時間起きていることになる）、朝食の集合時間を7:20とし別れた。明日はいよいよホストファミリーとの出会い、非常に楽しみである。

○8月13日（火）2日目

時差ぼけからかぐっすり眠れずに3:00起床、朝からコペンの町を散歩する。街並みはきれいだが、ゴミは多い。日本と同じで、散歩やジョギングをしている人が多くいた。

朝食はバイキング形式でとてもおいしく、子どもたちもたくさん食べていた。その後、部屋に戻って荷物を整理しロビーに集合した。約束の時間になっても緑中トリオが来ないので様子を見に行くと、菊池君のトランクが閉まらず…。ここで「5分前行動」を鉄則とすることを宣言し、確認し合った。このようなことをいちいち確認しなければならないのは、集団としての力がないからである。

アシスタントとコペンの駅に向かった。こちらの信号は変わるのが早く、隙を見せるとすぐに赤に変わってしまう。荷物を持った状態なので歩くのも一苦勞である。いよいよオーデンセにむけて出発、電車の中では、みんなからジロジロ見られたが、いんちき英語でコミュニケーションはとれた。ちょっとした国際交流である。



オーデンセに着くと噂の「道子さん」が待っていてくれた。すぐに昼食のサンドイッチとジュースを全員分購入し、近くのホテルに荷物を預けた。サービスで200dkkにしてくれるというので甘えることにした。

アンデルセンの生家に出掛ける、と同時に突然のスコール。知らない民家の軒先で雨宿り、仕方がないのでそこで昼食とした。しばらくすると雨が上がり、気を取り直して出発することとなった。道子さんはよっぽどアンデルセンのことが好きなのか、情熱的に語ってくれた。リングゲへの電車時刻は刻一刻と迫っていたが、言い出せる雰囲気ではなかった。この行程は意外と長いので子どもたちも飽きてきている様子だった。アンデルセンの博物館では、菊地主査からいただいた「証明書」が威力を発揮して全員無料と言うことになった。困ったらこの証明書を使おうと心に決めた。



道子さんの案内も終わり、15:23発の電車でリングゲに向かう。いつまでも手を振ってくれる道子さん、別れが寂しく感じた。リングゲの町が近づくにつれ、子どもたちも緊張してきた様子だった。しばらくするとデンマークと日本の国旗を振っている集団が見えてきた。盛大な出迎えた。あっという間に子どもたちはホストファミリーに連れて行かれた。子どもたちは、はにかみながらも笑顔に迎えられたためか、安心した表情だった。全員が出発するのを見届けていよいよ我々のホストであるジョナサン家に向かった。父のピーター、

母のドラ、妹のキャサリン、そして6ヶ月の弟セバスチャン。最高の出会いだった。早速、夕食の準備をしてくれてご馳走になった。夕食後、お土産を渡し、少し会話をすると10:00になったので、go to bed 落ちるように寝た。



○8月14日(水)3日目

今日はフリースクール、学校で子どもたちと会うと、昨夜はぐっすりだったと、少しずつ時

差ぼけが治ってきたようだ。それぞれホストの家でよくしてもらったということでまずは一安心。食欲を聞くとみんな大丈夫と言うことだったのでこちらも安心、まずまずのスタートである。アネさんの案内で全校朝会に行くと「さくらさくら」を歌っていた。子ども



たちは7年生の教室に向かい、田村先生とジャンセンさんの車で町を案内してもらった。途中、ジャンセンさんの自宅にも招かれ、自作の日本庭園を見せてもらった。その後、市役所に向かい、市長は不在だったが代わりにの方に親書を渡した。

市役所を後にしてフリースクールへ、ちょうど10:00ということでおやつタイム、またパンを食べた。聞くと午前中にこのような時間が毎日

あるそうだ。子どもたちはそれぞれの友だちと楽しく過ごしているようだったが、家では意外と気を遣っていたようだ。不安もあるだろうがそれを出さないようにしていたのは大変立派である。

子どもたちが授業を受けている間、施設を見学させてもらった。どの施設も綺麗でお金がかかっているのがよくわかった。特に、隣にある高等部は週4000dkkかかるらしく(寮費込み)、裕福な家庭の子しか入学できないような学校のようなのである。ちなみに授業は、日本の先生の方が断然上手に思えた。子どもたちと別れ、帰りはジョナサンと歩いて帰ったが、とても疲れた。

家に帰ると、ケーキを作ってくれていた。ちょっと肌寒いけど外で食べた。これまた美味しいが、とっても甘い。こちらの人は、甘いものが好きなようでケーキにもたっぷり甘いものを付けて食べる。妙に醤油が恋しくなった。

夕方、17:00頃にピーターにオーデンセに連れて行ってもらった。次の日のレゴランドのために換金する必要があったからちょうどよかった。家族で花祭りを見学したり、お土産を買ったりした。夕食は、ヨーグルトのようなものにクッキーを入れて食べた。おやつみたいだが、デンマークでは一般的らしい。甘い夕食は勘弁してほしかったが、笑顔でおかわりをした。ちょっとした国際交流である。夜はこちらに来て初めて洗濯をした。

○8月15日(木)4日目

今日は朝からノーアエア校の見学である。幌別中学校と姉妹校と言うことでどんなところか非常に楽しみだ。集合場所に着くと子どもたちが集まっていた。聞くと昨日は何人か



で集まってテニスをしていたそうだ。みんな表情も明るく、体調も良さそうなので安心した。フリースクールの生徒も一緒に校内に入ると8年生の教室に案内され、登別市のプレゼンを発表させてもらった。なかなかよい反応だったので、本番に向けてよい準備となった。公立校なので環境はどうかと思ったが、さすがデンマーク、施設は立派で小中が一緒のようであり、放課後児童クラブもあった。生徒も皆さんも人な

つこく、笑顔あふれる交流であった。

交流も終え、9:20いよいよレゴランドに出発。1時間半ぐらいかけて着いた。出迎いのレゴでできた人形が精巧に作られ驚いた。子どもたちは、デンマークのグループと一緒にそれぞれ遊びに出かけた。田村先生、フリースクールの担任と別れ別行動。写真を撮ったり、様子を聞いたりするためだ。園内は広く探すのも一苦労だった。いろいろな国の人が

いてさまざまな言語が飛び交っていた。そういえば日本人の家族とも会った。デンマークの人気スポットと言われるレゴランドは、日本でいうところのディズニーランドなんだろう。子どもたちの中でハンバーガーを食べている子がいたが、同じグループのデンマークの子は食べていなかった。彼らは家で作ってもらったサンドイッチやフルーツを食べていた。登別の子も作ってもらったはずなのでそれもきちんと食べるように指導した。こういうところは反省点として次年度にもつなげなければと思った。



帰りのバスの中では、日本人だけで集まって悪ふざけをしていた。ストレスが溜まってきているのか、一度ミーティングをしなければならぬと感じた。

いよいよ夕方からはパーティー、鬼踊りだ。パーティーは19:00開始。それぞれの家庭から持ち寄った料理と飲み物で行う。ここで各ホストファミリーの席に向かってお礼を言いに行く。皆さんよい人ばかりだった。途中20年前に登別に来てくれたご夫婦に全員分のTシャツをいただいた。その方は約一ヶ月登別市で過ごし、素晴らしい思い出を作ることができたと話してくださった。過去たくさんの方が築いてくれた絆、いつまでも大切にしなければならぬと心から思った。鬼踊りも無事に終了。

パーティーも終わり、ミーティングをすることにした。少しだらけたゆるい空気になってきたからだ。子どもたちも慣れない生活にストレスを感じてきたようでもう一度目的を再確認した。少しずつチームワークが高まっていくのを感じたミーティングだった。

○8月16日(金)5日目

今日はフリースクール最終日、朝会で登別紹介と歌をうたった。発表は練習の成果を発揮し、「ゆっくり、はっきり」と立派にできた。さすが本番に強い！終わった後は全校みんなで鬼おどり、これはサプライズだった。ホールが狭いのでその場で移動なしで踊った。

その後、森の幼稚園に出掛けた。近くと聞いていたが遠い遠い。疲れが溜まっているときにこれはかなりきつかった。



幼稚園は園児が45名、火をおこして料理をしたり、子どもにナイフを持たせ木を削らせたりと日本では考えられないことばかりだった。午後からは、教会・図書館に出掛け最後は老人ホームに行った。ここでは「さくらさくら」を歌った。フリースクールの生徒も一緒に行ったので交流はできなく残念であった。現地解散となり、帰りはジョナサンのおじいちゃんに送ってもらったが一日中歩きっぱなしだ

だったのでとても助かった。

本日の夕食は、ビーフハンバーグとても美味しかった。デザートのアイスcreamは4種類も出てきてしかもアイスにチョコクリームをかけるなどこっちは人は本当に甘いものが大好きようだ。甘いアイスに胸やけがしておかわりをせずにいると「体調悪いか？」・・・。

○8月17日(土)6日目

今日は、学校がなくイーエスコウ城に10:00集合なので朝はゆっくり起きた。起きてシャワーを浴びた後いつもの散歩に出掛けた。あいにくの雨模様だが、デンマークの天気は変わりやすいのですぐに雨は上がった。ドラのお父さんも朝から来てくれて賑やかに朝食をいただいた。今日はデニッシュパンのとても甘いパンが出てきたが食べないと悪いのでいただいた。



イーエスコウ城には10分程で着き、我々交流団は、証明書を見せると無料で入ることがで

きた。この城はニクスのモデルだけあってとても美しい水城だ。城内にはクラシックバイクや車も展示してあってたくさん歩いた。引率者も子どもたち同様運動靴がベストであろう。昼はサンドイッチ、美味しいがさすがに飽きた。子どもたちとも話したが、うどんやそば、おにぎりが食べたい。やはり日本食は世界一である。ところでこちらは日本車が非常に多く、トヨタ、マツダをよく見た。聞くところによると日本車は安くて故障が少ないので人気が高く、ベンツやBMW等に乗っている人は平均以上の生活をしているらしい。夕方3時過ぎに帰り、夕食までのんびりできたが時々雨となっている。



最後の夕食はいつも以上にご馳走を用意してくれた。クリスマスの時に食べる料理やデンマークの伝統料理、山わさびもご馳走になった。夕食後、ピーター、セバスチャンと近くを散歩した。相変わらず街並みは美しい。風景写真のようだ。見納めだと思うと少し寂しい気がした。家に帰るとプレゼントをいただいた。泊めてもらっただけではなくプレゼントまでとは申し訳なく思った。その後、ジョナサンのマジックを

見たり、おしゃべりを楽しんだりしながら最後の夜を過ごした。寝る前の挨拶の時は、顔を見るのがつらかった。デンマークですてきなファミリーに出会えて本当によかった。ありがとうデンマーク！

○8月18日（日）7日目

朝はいつも通りに起きて、最後の散歩をした。何気ないいつもの風景がより美しく見えた。朝食をいただき身支度を調べ、駅に向かう。いつも賑やかな車内が静まりかえっていた。駅に着くと続々と子どもたちとそのファミリーが集まってきた。別れを惜しむ姿が至るところで見られ、交流が大成功だったことが実感できた。ファミリー、フリースクール関係者等々、多くの方が見送りに来てくれたため、狭い駅が多くの人であふれていた。オーデンセ行きの電車に乗り込み、車窓からはいつもでも手を振っているリングの方々、子どもたちもしばらく無言だった。いつもは感情を表に出さない生徒も涙を流していた。別れを迎えて改めてホストファミリーの優しさ、楽しかった思い出がこみ上げてきたのだろう、こちらも胸が熱くなった。



空港に着くと荷物を預け、昼食をとりお土産を買うための自由時間を作った。その後、飛行機に乗り込み、長いフライトの末、日本帰国。成田空港から羽田空港にバスで移動し、新千歳空港着となった。17:40市役所着、無事に任務終了。

登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業に参加して

引率（登別市立鷺別中学校） 田村 晶子

この度、平成25年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の派遣交流団の一員として参加させていただきましたことに厚くお礼申し上げます。

また、派遣に際し、様々なご指導をしていただいた小笠原市長、武田教育長には心より深く感謝申し上げます。

さらに、事前研修より派遣のためのご指導をしていただきました関係者の皆様には改めて深くお礼申し上げます。

派遣団一行は、皆様のご協力とご指導のおかげをもちまして、現地の人たちと交流を深め、多くのことを学び、たくさんの収穫を得て無事に帰国することができました。

事前研修では、それぞれが設定した研修テーマについて自分で調べ、現地ではホストファミリーの協力を得ながら調査をすることができました。

また、事前研修での日常の英会話に加え、登別市についての英語での発表や、リングフリー校や老人ホームで披露するアトラクションの練習をしたことは、日本人には課題とされる表現力を育む活動だったと感じています。

また、派遣前にデンマークの料理を自分たちで調理して、ALTと英語で会話をしながら食事をしたことも、テーブルマナーやホストファミリーとの食事を想像する上で、有意義だったと思います。派遣交流団はこのような様々な事前研修を重ねる中で、交流を深め、団結していくことができました。



今回の派遣に伴いまして、派遣された生徒全員にはデンマークで経験し、学んだことを今後の学校生活やこれからの人生に生かしてほしいと願っています。

最後になりましたが、8年ぶりに訪れたデンマークは何も変わらず、美しく、人々は皆親切でした。前回お会いしたり、ホストファミリーだった人が覚えていてくれたことがとても嬉しかったです。一緒に研修を積んだ派遣交流団の仲間や、現地で交流を深めた友人、お世話になったホストファミリーとのつながりを大切にして、今後もさらにこの交流事業が発展されることを願っております。